

令和5年度小平市立小平第八小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全体の正答率は、全国平均を4.8ポイント上回り、「思考・判断・表現」のポイントが高かった。特に「話すこと・聞くこと」や「読むこと」では、全国平均を約8ポイント上回った。一方、「知識・技能」では、全国平均をやや上回るにとどまった。

課題

全国平均は上回ったものの漢字や言葉の定着に課題が見られる。また、考えが伝わるように書き表し方を工夫することが苦手な児童が多い。少数ではあるが、無答が目立つ児童や長い文章を読むことが苦手な児童がいるので支援が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

週2回設定されているモジュール（15分間の学習）や家庭学習を利用して、漢字や言葉の指導を引き続き行う。語彙や表現力を高めるため、読書活動も大切にしていく。作文については、書き表し方の基本を丁寧に指導し、ねらいや書く内容を明確にしてから、文章を書かせる。作例から書き方を学んだり、共通の課題で書き交流したりすることで、表現力を高める。

【算数】

状況の分析

全体の正答率は、全国平均より10.5ポイント高く、どの領域でも全国平均を上回った。記述式の問題の正答率も平均に比べると高かった。基本的な学習内容は身に付いている児童が多いが、発展的な内容に取り組める児童は少ない。

課題

「図形」領域は、平均を上回ったものの正答率が低い問題が複数あった。図形を多面的に見る力に課題がある。「データの活用」は、他の領域と比べて無答率が高い傾向にあった。資料を目的に応じて活用する力を伸ばす必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

ペア学習やグループ学習を取り入れ、考えを友達と交流する集団検討の場を設定する。習熟度別の発展コースでは、発展問題に精選して取り組み、統合的に考えたり、多面的に考えたりできるようにする。また、補充コースでは、既習学習に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る。「図形」では、実物を操作したり実際の大きさをつかんだりする活動を取り入れ、学習に実感をもたせるようにする。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童は95%を超え、生活習慣が整っている児童が多い。「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立ちたい」と答えた児童の割合が全国と比べて高く、自己肯定感が育っていることがうかがえる。

国語の授業での言葉の学びがよりよい人間関係につながるという意識が高まっていない。また、学級会を通して学級や自己を高めていく意識があまり育っていないことから、より活動を充実させる必要がある。少数ではあるが、「学校が楽しい」という問いに否定的な回答をしており、学習面、生活面で支援していく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

全教職員で共通した生活指導を行うことで、生活習慣や規範意識を更に身に付けさせていく。また、家庭にも学校での指導について説明し（保護者会・お便り等）協力を呼び掛けていく。児童が語彙を豊かにすることは、よりよい人間関係の構築につながるという意識を教員がもち、国語の授業の中で言葉への意識が高まるような指導を行う。また、一人一人が活躍する機会を設定し（全校朝会でのスピーチ・委員会活動での発表・ブロック班活動・各教科学習での発表等、）言葉で表現する経験をさせることで自信を付けさせていく。学級会を通して、学級がより充実した実感をもたせられるように、児童発案の取組を実施し、価値付けていく。教科の学習では、ペアやグループ等学習形態を工夫したりICT機器を積極的に利用したりし、児童の学習意欲が高まるような指導を工夫していく。